

夏の午後

光が射し込んで 眩しすぎるくらいの午後の部屋で
少し気を許せば 瞼が閉じてしまいそうになるよ

ウチの犬もうさつきから すっかり寝てるし
私だってもう限界 FMの音遠くなる
子守唄みたいね

ちょっとだけなら大丈夫と思ったから
私すっかり眠りに落ちていたの
私の手を触られて目が覚めると
エサを欲しがる尻尾を振る子犬が

コーヒーを淹れたら とってもいい香りでリッチな気分
窓際に近づき 遠くに見える海を眺めてみる

今日は波高くないから サーファーも少し
手持ち無沙汰 このままだとみんな引き上げていきそう
あと一時間かな？

このコーヒー飲んじゃったら出かけよう
いつもの店にきっと集まってくるよ
休み前に買っておいたゲームして
ビリになったら罰ゲーム何にしよう

次々とみんなが 集まり始めてきたお店の中
ワイワイと賑やか 常連ばかりでみんな笑ってる

右の方ふと見てみたら 久しぶりの顔
髪が伸びて化粧変えた 懐かしい彼女がいたの
駆け寄ってしまった

抱き合ったり手を握って笑い合う
ホント何年会ってなかっただろう？
とりあえずの乾杯してゆっくりと
話し始める 今日はもう離さない

夕陽が射し込んで すっかり赤く染まった空を見て
少し涼しい風 みんなの頬をかすめてく夕暮れ